

東日本大震災に伴い発生した 瓦れきの受け入れに関する決議

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0を記録する大地震が東北地方太平洋沖で発生し、

それに伴う巨大津波の発生が、福島第一原子力発電所への壊滅的な損害初め東日本の沿岸地域を中心として甚大な被害をもたらす、現左に至ってもなお被災地の

住民が耐え生活を余儀なくされている。

このよ様な悲惨な事態を打開するため、我が国各地の方々はもとより世界各国から救援の手が差し伸べられ、被災地の復旧と復興に向けて取り組んでいる。

本市でも、消防職員による救助は言うに及ばず、飲

料水の供給、医療関係、行政関係職員の出遣や救援物資、義援金の提供、あるいは被災者の受け入れなど、さまざまな方面から復興支援に取り組んできた。

しかしながら、被災地の復旧、復興への大きな障害となっているのが、この大震災に伴い発生した膨大な瓦れきの処理が進まないことである。

このまま全国の自治体の協力がなければ、この先長

きにわたり瓦れきがそのまま放置されることになりかねず、被災地の方々の苦悩を思えば、また被災地の一日も早い復興を願う私たち思いをかんがみれば、今こそ我が国国民の協力をもって瓦れきの処理に当たるべきである。

省の調整により両県での協定を結ぶことで、本市は岩手県の瓦れきを受け入れ、処理することとなる。よって本市議会は、本市に対し、科学的な知見により放射能の影響を検証し、放射線量の測定等十分な体制を整えるとともに、現在本市が処理している通常の廃棄物と判断されるものについては受け入れよう決議する。

こどもたちは 日本共産党



子どもの医療費無料を
中学卒業まで拡大するよ
う求める署名を、願
いしながら、若いお母さんと
お話ししていたときのこと
です。

「共産党って、どう思われますか」とお聞きしますと、「どっちですか?」と逆にたずねられました。「ど、どっち?」「悪い方ですが、増税するんですか」「いいえ、消費税の増税はくらしも負担もますます悪くするので反対です」「じゃあ、よかったです」「マスコミは政府・与党の



くにいげ 秀明 (衆院1区)

動向を中心に政治の報道をします。各政党が、政治の焦点になっっている問題でど、という見解をもっているのか。政党自身が懸命に伝える努力をしなければならぬことを改めて教えられました。

日本共産党和歌山市議員団は、「瓦れき受け入れ決議」について、他の党派とともに、提出者に加わり決議に賛成しました。その理由は、この決議により国の無責任な瓦れき処理の地方自治体への押しつけを許さず、市に対しては安全基準を守らせるための歯止めをかけることができると判断したからです。

本決議は『本市に対し、(1)科学的な知見により放射能の影響を検証し、放射線量の測定等十分な体制を整えるとともに、(2)現在、本市が処理している通常の廃棄物と判断されるものについては受け入れるよう決議する』と、市に2点について要望しています。

私たちは、被災地に寄り添い瓦れき処理に協力することと市民の健康・安全を守ることをどのように進めるかということをも市議員団会議で繰り返し討議を重ね考えました。この決議については、放射能汚染を心配する市内外の方から「反対してほしい」との要望が、市議会にも私たち議員団にも寄せられました。今後は、この決議を市が誠実に受け止め、放射線量の測定と、決議に沿った判断が正しく行われる体制を求めていきたいと思えます。同時に、国、東京電力に対しては日本共産党国会議員団と連携し放射性物質で汚染された廃棄物の基準、放射線防護対策の抜本的な見直しと強化を引き続き求めていきます。

2012年3月22日 日本共産党市議員団